

新校設置計画

相模原方面 中等教育学校 (相模大野高等学校)

平成19年3月

神奈川県教育委員会

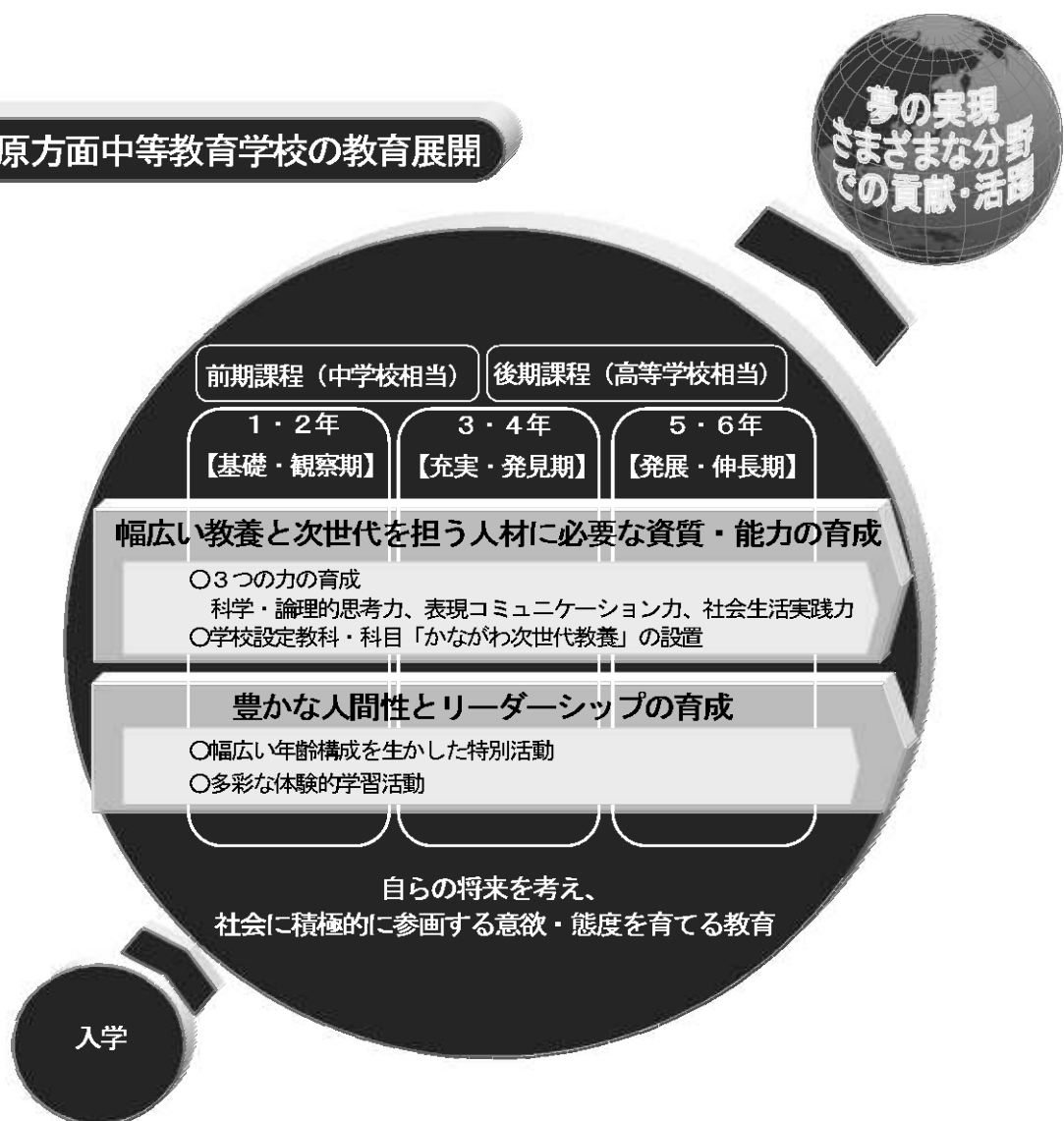
1 再編対象校、設置場所、開校年度、設置形態

- 再編対象校 相模大野高等学校
- 設置場所 相模原市相模大野4丁目1番1号（相模大野高等学校敷地）
- 開校年度 平成21年度（平成25年度までは相模大野高等学校を併設）
- 校 種 6年制による中等教育学校
- 学校規模 960名（各年次4学級160名、全24学級規模）
- 学 期 2学期制
- 授業時間 45分7校時を基本とした弾力的運用

〈 日課表 〉（予定）

ショートホームルーム	8:40 ～ 8:45	5分
1～4校時	8:50 ～ 12:20	授業45分×4 休憩10分×3
昼休み	12:20 ～ 13:05	45分
5～7校時	13:05 ～ 15:40	授業45分×3 休憩10分×2
ショートホームルーム	15:40 ～ 15:45	5分

相模原方面中等教育学校の教育展開



2 設置の目的

- 6年間の一貫した教育課程や学習環境の中で、多彩で豊かな教育内容の展開を通じて、個性や創造性の伸長を図る。
- これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備え、よりよい社会の構築に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成する。
- 学年の枠を超えた活動などを通じて、思いやりの心を持ち、自ら進んで未来を切り拓く意欲や行動力あふれる、豊かな人間性とリーダーシップを備えた人材を育成する。

3 教育活動展開の方針

(1) 中等教育学校のしぐみを生かした教育

6年間継続して学ぶ中等教育学校のしぐみを生かし、発達段階に応じた3期の設定や、中等教育学校の特例の活用等を行う。

○ 発達段階に応じた3期【2年-2年-2年】の設定

6年間を発達段階に応じて2年ごとに「基礎・観察期」「充実・発見期」「発展・伸長期」の3期に分け、学習内容の確かな定着を図りながら教育活動を展開する。(→3ページ)

○ 6年間を見通した充実した教科指導【中等教育学校に適用される特例の活用】

後期課程の学習内容の一部を前期課程に移行する等、中等教育学校に適用される特例を活用し、学ぶ意欲や、総合的な応用力を育成する独自の教科指導を展開する。(→3ページ)

○ 6年間という期間を生かしたきめ細かな支援体制の確立

心身ともに著しく成長する6年間を、指導観察記録等を活用し、きめ細かく指導するとともに、リトルチューター制（後期課程生徒による前期課程生徒に対する支援体制）を導入する。(→4ページ)

(2) 社会を支え、未来を切り拓く意欲・能力を育む教育

社会を支え、未来を切り拓く意欲にあふれる人材を育成するために、キャリア教育を基盤として、教科活動や特別活動において、さまざまな分野で貢献・活躍するために必要な力を育む教育を行う。

○ 幅広い教養と次世代を担う人材に必要な資質・能力を育成する教育

幅広い教養と次世代を担う人材に必要な資質・能力を育成する教育活動を展開する。

- ◆ 3つの力：「科学・論理的思考力」「表現コミュニケーション力」「社会生活実践力」の育成・伸長を重視した教科学習指導を展開する。(→5ページ)

- ◆ かながわ次世代教養：未知の事態や新しい状況に的確に対応していく力を育成するため、IT活用、英語コミュニケーション、伝統文化・歴史、地球環境の分野を6年間体系的・継続的に学習する教養教科・科目として「かながわ次世代教養」を設置する。(→6ページ)

○ 豊かな人間性とリーダーシップを育成する教育

さまざまな相手を思いやる心を持ち、自らの役割を進んで果たす未来を切り拓く意欲や行動力を伸長するため、特別活動や学校外の機関との連携による社会体験活動、各界のリーダーによる特別講座等、多彩な体験的学習活動を展開する。(→7ページ)

< すべての教育活動の基盤 >

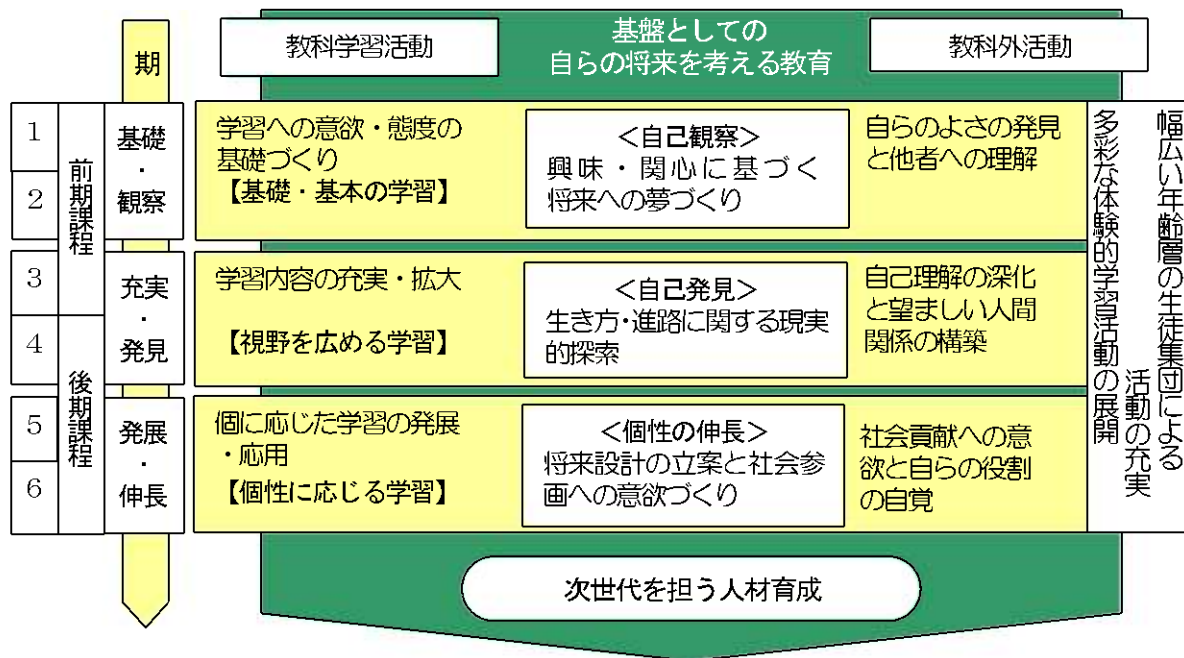
○ 自らの将来を考え、社会に積極的に参画する意欲・態度を育てる教育

生涯にわたり自己の在り方生き方を考え、積極的に社会に参画し、これからの社会を支える意欲ある人材を育成するために、自らの将来を考える教育（「キャリア教育」）を基盤とした教育活動を展開する。(→7ページ)

4 中等教育学校のしくみを生かした教育

(1) 発達段階に応じた3期【2年-2年-2年】の設定

6年間を2年ごとに3期に分け、各期における学習内容の確かな定着を図りながら、発達段階に応じた教育活動を展開する。



(2) 6年間を見通した充実した教科指導【中等教育学校に適用される特例の活用】

○ 後期課程の学習内容の一部を前期課程に移行して指導

中等教育学校に適用される教育課程の基準の特例を活用し、各教科の特質に応じて効果的な学習を行うため、後期課程の学習内容の一部を前期課程に移行することを積極的に導入し、学ぶ意欲や、総合的な応用力を育成する独自の教科指導を展開する。

＜ 内容の一部を移行して学習する教科・科目一覧 ＞（予定）

課程	前期課程（中学校相当）	後期課程（高等学校相当）
教科 科目	国語	国語総合
	社会	現代社会
	数学	数学 I
	理科	理科総合 B
	英語	英語 I

○ 前期課程における選択教科の拡大

中等教育学校に適用される教育課程の基準の特例を活用し、生徒の特性等に応じた多様な学習活動を行うため、前期課程から幅広く選択教科を導入する。

＜ 前期課程に設定する選択教科の例 ＞

サイエンスチャンネル（多様な科学）

物理・化学・生物・地学の4分野の実験を通して実験の基礎知識・技術の習得、探究の方法の習得を通して、科学的な思考力を育てる。

英会話技術

多彩な活動場面を設定し、英語を積極的に話す態度や自信を持って発表する力を育てる。

（3）6年間という期間を生かしたきめ細かな支援体制の確立

○ ガイダンス、カウンセリング体制の充実

一人ひとりの将来を見据え、6年間を通じた指導観察記録を活用し、目標に応じた学習計画・科目選択のためのカリキュラムガイダンス、進路指導などのキャリアガイダンス、生活面や心理面での課題に対応するカウンセリングなどの体制を充実する。

○ チューター制・リトルチューター制の導入

入学年度ごとのホームルーム編成を行い、複数担任制を導入するとともに、生徒一人ひとりに対し日常的に助言や支援を行う教員によるチューターを配置し、複数担任との連携を図りながら、生徒の学びや自己実現をきめ細かく支援する。

また、後期課程の生徒が前期課程の生徒に対して、学習や学校生活について相談を受けたり助言したりするリトルチューター制を設ける。

5 社会を支え、未来を切り拓く意欲・能力を育む教育

(1) 幅広い教養と次世代を担う人材に必要な資質・能力を育む教育

◆3つの力の育成

6年間の継続した教科学習指導を通じ、次世代を担う人材に必要な次の3つの力の育成を重視した教育課程を編成する。また、実験・実習や発表、ディベートなど、生徒の主体的な学習活動を多く取り入れた授業展開により、興味・関心を引き出し、学ぶ意欲と率先して取り組む行動力を育成する。

<3つの力の内容と特色ある選択教科・科目例>

育成する力	内容	特色ある選択教科・科目例
科学・論理的思考力	科学的根拠に基づく考察などにより、さまざまな事象を論理的に理解し、順序立てて説明する力	サイエンスチャンネル (多様な科学) 科学実験室 記号と論理 など
表現コミュニケーション力	相手の主張や状況などを的確に把握し、自己の考えや行動をその場にふさわしい方法で表現し、相手に伝えることのできる力	評論解析 英語弁論術 英語実践 グラフィックデザイン など
社会生活実践力	さまざまな社会現象を多面的にとらえる知識や技能を持ち、課題解決のために活用できる力	時事問題 サステイナブルソサエティ (持続可能な社会) など

特に「科学・論理的思考力」の育成に重点をおいた特色ある選択教科や学校設定科目を設置する等カリキュラム展開に特色を持たせ、国際社会の中のさまざまな分野で活躍するために必要な、科学的思考力、論理的思考力を伸長する。

<「科学・論理的思考力」を育成する特色ある科目例>

科学実験室

通常のカリキュラムでは扱わない高度な内容をテーマとした探究活動を行い、科学に対する意欲的な探究心を育てる

記号と論理

演繹法・帰納法など論理的な考え方の基礎を学ぶことによって、論理的なものの見方・考え方を身につける。

◆学校設定教科・科目「かながわ次世代教養」の設置

神奈川の豊かな国際性や歴史・自然など地域の特性を生かしつつ、地球規模で環境や歴史文化、科学技術などを考える視点を持ち、適切に情報を活用し、未知の事態や新しい状況に的確に対応していく力を育成する。このために、IT活用学習、英語コミュニケーション学習、伝統文化・歴史学習、地球環境学習を中心に、段階を踏んだ体系的な学習内容、生徒が自ら学び方を学ぶ能動的な学習形態により、6年間継続した学習を行う。

<「かながわ次世代教養」学習活動のイメージ>

年 次	1・2年	3・4年	5・6年
期	基礎・観察期	充実・発見期	発展・伸長期
目 標	基礎知識と技能の習得 生徒が自ら学ぶ学習活動を展開する上で基盤となる基礎知識や各種調査の基本的手法を習得するとともに、各分野への関心意欲を引き出す。	理解の深化と課題発見 現代社会の事象を考察する力を深め、多様な調査法、発表方法を実践的に習得し、自己や社会の在り方について課題を発見する。	研究活動と社会への発信 社会に発信することを前提として、自ら設定した課題について、学校外の各種機関などとの連携も図りながら研究を行い、社会参画への意欲を高める。
学習分野			

<「かながわ次世代教養」の学習分野>

IT活用

情報社会の進展に積極的に対応し、ITを最大限に活用していく意欲と能力を養う。

英語コミュニケーション

国際社会の進展に積極的に参画し、英語コミュニケーション能力を最大限に活用していく意欲と能力を養う。

伝統文化・歴史

神奈川や日本の伝統文化・歴史に関する具体的な事柄や事象を多面的・多角的に考察するとともに、地球規模で伝統文化・歴史を考える視点を持ち、多様な文化や歴史を理解し尊重することで、問題解決的な手法によりこれからの時代を創造していく意欲と能力を養う。

地球環境

神奈川や日本、世界の自然・科学・環境に関する具体的な事物や現象を多面的・多角的に考察するとともに、地球規模で自然・科学・環境を考える視点を持ち、課題を見だし、問題解決的な手法によりこれからの時代を創造していく意欲と能力を養う。

(2) 豊かな人間性とリーダーシップを育成する教育

○ リーダーシップ特別講座の開講

自ら進んで社会に貢献し、道を切り拓く意欲や行動力を伸長するため、さまざまな分野で活躍しているリーダーについて学んだり、直接話を聞いたりする特別講座を開講する。

○ 校外機関との連携による学習活動、研究活動の充実

学校外の教育資源の活用や専門的な講師による先端的な内容、専門性の高い内容などの指導を通じて、より質の高い学習・研究内容に触れる機会を拡大する。

○ 勤労観・職業観を高め、これからの社会の中での自己の生き方を考える活動

神奈川のさまざまな産業や職場の見学、働く人々との交流を通じ、視野を広め、現実的な視点で自己の生き方や勤労観・職業観に対する認識や理解を深める。

○ 多様で活気ある生徒会活動

幅広い年齢層の生徒同士の交流を通じて、豊かな人間性やリーダーシップの育成が図れるよう、生徒の主体的な活動により運営する場を多く設定した多様で活気ある生徒会活動を展開する。また、前期課程についても運営能力等を伸長できるよう「前期生徒会」を設置する。

○ 幅広い地域・国際交流活動

学校や自宅を含む地域の幅広い人々や、海外姉妹校生徒、留学生とのさまざまな交流（協同作業や学習ボランティア等）を通じ、多様な人々の立場や考え、異文化等を尊重し理解する意欲や態度を育成する。

(3) 自らの将来を考え、社会に積極的に参画する意欲・態度を育てる教育

○ 6年間で育成する能力

積極的に社会に参画し、これからの社会を支える意欲ある人材を育成するために、自己や職業・勤労に対する理解を深め、自らの将来を考える教育（「キャリア教育」）を基盤とした教育活動を展開し、キャリア発達に必要な諸能力（「自己教育能力」「人間関係能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」）の育成・伸長を図る。

○ 自ら考え、学ぶ意欲を引き出す取組

発達段階各期の目標に応じた各教科指導や特別活動における取組に加え、「総合的な学習の時間」においては、6年間を通じてキャリアプランニング（自己や職業に対する現実的理解に基づき、将来設計や、その実現に向けての取組）を重点的に展開する。

また、6年間の生徒一人ひとりの発達段階に応じたキャリアガイダンスやキャリアカウンセリング等、進路に関する現実的模索を支援することにより、進路実現に必要な能力や意欲を引き出し、さまざまな分野でリーダーシップを発揮する意欲と能力の育成を図る。

＜社会を支え、未来を切り拓く意欲・能力を育む多彩な体験的学習活動例＞

年次	1・2年	3・4年	5・6年
期	基礎・観察期	充実・発見期	発展・伸長期
活動例	〈1年次〉 ○入学式 ○オリエンテーション合宿 〈2年次〉 ○産業体験合宿 ○職業体験Ⅰ	〈3年次〉 ○イングリッシュキャンプ ○自己発見チャレンジ週間 〈4年次〉 ○リトルチューター研修 ○職業体験Ⅱ	〈5年次〉 ○研修旅行 ○大学・研究機関訪問、就業体験 〈6年次〉 ○かながわ次世代教養研究発表大会 ○卒業式
	○体育祭 ○文化祭 ○合唱コンクール ○芸術鑑賞教室 ○各種施設などの見学、交流体験 ○企業・大学等研究機関との連携講座 ○ボランティア活動 ○部活動合宿 ○生徒会リーダー合宿 など		

社会を支え、未来を切り拓く意欲・能力を育む教育活動

中等教育学校のしくみを生かした教育



夢の実現 さまざまな分野での貢献・活躍

(1) 基礎・観察期 (1年次・2年次)

○ 教科学習

少人数・習熟度別学習の一部導入により【基礎・基本の学習】を徹底するとともに、中等教育学校に適用される教育課程の基準の特例（後期課程の学習内容の一部を前期課程に移行、選択教科の拡大）を最大限に活用し、興味・関心や進路希望に対応した学習が展開できるような幅広い選択教科を設置することによって、主体的に学ぼうとする意欲を引き出す。

「かながわ次世代教養」では、少人数学習により4つの分野の基礎知識・技能を習得する。

○ 特別活動

「自らのよさの発見と他者への理解」を目標として、基本的生活習慣の確立と生活態度の育成をめざし、学級活動を基盤とした特別活動の中で人間関係形成能力の基礎を育む。

<特色ある特別活動の例>

オリエンテーション合宿（1年次）

6年間の学校生活のガイダンスとして行い、集団生活の中で、生徒同士の相互理解とそれぞれの果たす役割に対する自覚を育てる。

○ キャリア教育

人間関係構築の基礎となる自己理解をふまえて、将来の社会参画のための社会観・職業観を育成し、興味・関心に基づく将来への夢づくりをする。

<特色あるキャリア教育の取組の例>

産業体験合宿（2年次）

神奈川県内のさまざまな第一次産業について、見学や体験作業を通じて理解を深めるとともに、自然と人間、産業との関わりについて多角的な視点で考察する力を養う。

3期共通の活動

○ 学級活動・ホームルーム活動

入学年次別に学級を編成し、複数担任制により、生徒一人ひとりの状態を把握し、人間関係形成能力の育成基盤として個と集団との望ましい関係や、社会の一員としての自覚を深めることができるようきめ細かく指導する。

○ 生徒会活動・部活動

幅広い年齢層の生徒同士の交流を通じて、豊かな人間性やリーダーシップの育成の場とすることができるよう、生徒の主体的な活動により運営する場を多く設定する。

生徒会活動については、前期課程においても運営能力を伸長する場として、「前期生徒会」を併せて設置する。

部活動については、活動内容等により異なるが、原則として1年次～6年次までの合同活動が図れるよう配慮する。

(2) 充実・発見期 (3年次・4年次)

○ 教科学習

校外機関との連携や学校外での学習活動を積極的に導入することにより【視野を広める学習】を展開する。また、後期課程の単位制の特性を生かし、一人ひとりの興味・関心に対応できるよう多様な選択科目を設置し、個性や進路に応じた学習計画を主体的に作成し学ぶ力を育成する。

「かながわ次世代教養」では、3年次・4年次合同グループ編成での課題学習等により、多様な調査・研究手法を実践的に身につける。

<特色ある学習活動の例>

生徒一人ひとりの時間割の作成(4年次以上)

後期課程は単位制で学年区分がないため、同じ科目を選んだ年齢の異なる生徒が一緒に学習することになる。きめ細かな履修ガイダンスや個別相談を受けながら、能力や興味に応じて3年間を見通した各自の学習計画を立案し、一人ひとりが時間割を作成する。

※ 学習内容の一部を前期課程に移行している科目は全員が履修 学校外の学習成果による単位認定の促進(4年次以上)

大学・専修学校などと連携して行う学習活動の成果や、実用英語検定など技能審査の成果、ボランティア活動、スポーツ・文化活動といった学校外での学習成果による単位認定を積極的に行い、主体的な学習活動を促進する。

○ 特別活動

「自己理解の深化と望ましい人間関係の構築」を目標として、自立と他者との協調を推し進め、下級生の支援をする一方、上級生に助言を仰ぐなど、さまざまな立場で集団行動に参加することを通して、よりよい人間関係やリーダーシップについて理解を深めるとともに、行動する力を育む。

<特色ある特別活動の例>

リトルチューター研修(4年次)

下級生の学習や学校生活について相談を受け、助言するなど支援するとともに、学校や社会のさまざまな活動場で、進んで役割を果たす力を育成する。

○ キャリア教育

自己理解を深めるとともに将来に向けての目標を定め、生き方・進路に対する現実的探索を行う。

<特色あるキャリア教育の取組の例>

自己発見チャレンジ週間(3年次)

「かながわ次世代教養」をはじめとする前期課程のさまざまな学習活動のまとめや、後期課程における学習活動への意欲を喚起する機会として、また生徒自身の興味・関心や進路に応じ、将来の職業選択や自己の在り方生き方に対する理解を実践的に深めることができるよう、その成果を発表することを前提として、学校生活を離れ、集中的な調査・研究、体験的学習活動を行う。

(3) 発展・伸長期 (5年次・6年次)

○ 教科学習

発展的、応用的な多様な選択科目を設置し【個性に応じる学習】を可能にする。

「かながわ次世代教養」では、各自が設定する研究内容によって、5年次・6年次合同で組織するゼミナールに所属し、6年間の学習活動のまとめとしての卒業研究に取り組むことで、進路希望に対応し、自己実現に向けた意欲的な進路選択を可能にする応用力を育成する。

<特色ある学習活動の例>

多様な選択科目の設置 (主に5年次・6年次)

評論解析

社会学や心理学など多分野にわたる評論の読解を通して、現代における諸相を多角的にとらえ考察する力や、自己の考えを論理的に表現する力を養う。

サステイナブルソサエティ (持続可能な社会)

地球と人類の存続をはかり持続可能な社会を実現するため、生活様式や経済のシステムなどについて、課題を発見・分析し、考察を深める。

「かながわ次世代教養」卒業研究 (5年次・6年次)

I T活用、英語コミュニケーション、伝統文化・歴史、地球環境の4つの分野を総合的に学ぶことで身につけた幅広い知識と多角的な視点、多様な調査手法を活用し、一人ひとりがテーマを決め、5年次から6年次の夏にかけて卒業研究を行う。研究成果については、制作物(論文や作品)の提出と発表を全員が行い、社会へ発信し、中等教育学校での学びのまとめとする。

○ 特別活動

「社会貢献への意欲と自らの役割の自覚」を目標として、社会の一員としての自覚や責任を持ち、企画・実行・総括を集団や社会の中で発揮できる力や理想を追い求める態度を育む。

<特色ある特別活動の例>

研修旅行 (5年次)

海外を含めて複数のコースを設定し、生徒一人ひとりの興味・関心に応じてコースを選択し参加する。研修先では、インターンシップやインタビュー等多くの人との交流等、体験的な活動も盛り込んだ研修を行う。

○ キャリア教育

社会貢献に向けての意識と自己の役割を自覚し、自己の将来設計に対して具体的な取組を行い、将来設計の立案と社会参画への意欲づくりを行う。

<特色あるキャリア教育の取組の例>

大学・研究機関訪問、就業体験 (5年次)

進路希望や興味・関心に応じて、自己実現に向けた現実的な模索を行うため、学校や職場等を訪問し、現場の厳しさを知るとともに、実現のためのアドバイスを得る。

7 中等教育学校での学習活動と進路例

Aさんの場合 小学校時代は野山で自然とふれあうのが好きだった。

1 ・ 2	〈基礎・観察期〉	選択教科（サイエンスチャンネル（多様な科学））で、自然を科学的に探究するおもしろさに気づき、「かながわ次世代教養」では、コンピュータを利用した情報収集や分析に関心を持つようになる。
3 ・ 4	〈充実・発見期〉	「かながわ次世代教養」で、自然環境が破壊されている状況を学習し、地球の将来に不安を持つが、学び続けていく中で、持続可能なエネルギーシステムが研究開発されていることを知り、強い関心を持つ。 将来は、地球と人類の共存をめざして、地球環境を守る研究をしたいと考えるようになる。
5 ・ 6	〈発展・伸長期〉	理科・数学系の科目を多く選択するものの、社会のしくみも知る必要があると考え、公民科の学校設定科目も選択し、グローバルな見方・考え方を身につけようとする。 大学の環境工学の分野に進学し、持続可能なエネルギーシステムの研究を進めようと考えている。

Bさんの場合 小学校時代は世界各地を紹介するドキュメンタリー等を見るのが好きだった。

1 ・ 2	〈基礎・観察期〉	世界の人々との交流に憧れていたので、英語の基礎学習に力を入れ、英検にも積極的に挑戦する。
3 ・ 4	〈充実・発見期〉	社会科の授業や「かながわ次世代教養」で地球的な課題を知り、世界の難民について、テーマ研究を進める。この頃から国際交流活動にも積極的に参加したいと考えるようになる。 将来は、国連などの国際機関に所属し、地球的な視野に立って、経済格差の解決に向けて活躍したいと考えるようになる。
5 ・ 6	〈発展・伸長期〉	大学訪問で、国際支援の多様な機関や職種について理解を深め、学校設定科目や大学連携講座等で国際化が進む社会の課題を学ぶとともに、語学力の向上に努める。 大学の国際関係の分野へ進学し、国際公務員をめざして語学力や幅広い教養を高めるとともに、在学中に海外の現場支援にも参加したいと考えている。

Cさんの場合 小学校時代から宇宙に興味があり趣味は天体観測だった。

1 ・ 2	〈基礎・観察期〉	職業体験Ⅰ（インタビュー）で、ものづくりのおもしろさに気づくとともに、選択教科（サイエンスチャンネル（多様な科学））で科学の実験の楽しさにも夢中になる。
3 ・ 4	〈充実・発見期〉	学習活動や生徒会活動等で、共同作業の楽しさに目覚め、さまざまなグループ学習等にも意欲的に取り組む。自己発見チャレンジ週間を利用して、種子島の宇宙センターを見学し、ロケット開発に魅力を感じる。 将来は、ロケットを作るなど宇宙開発に携わる仕事がしたいと考えるようになる。
5 ・ 6	〈発展・伸長期〉	大学の研究室訪問等で、広範な分野の基礎学力の重要性に気づき、多様な学校設定科目や大学との連携講座を受講し、興味・関心に偏らない力を身につけることに努めている。 大学では専門分野の研究に打ち込むとともに、大学院はアメリカへ留学したいと考え、語学力の向上につとめようと考えている。

Dさんの場合 小学校時代は学校が大好きで、仲の良い友達も多く毎日楽しく登校していた。

1 ・ 2	〈基礎・観察期〉	オリエンテーション合宿で6年間のさまざまな合宿等体験的学習活動や幅広い学習の可能性を知り、中等教育学校の6年間も楽しく過ごせそうだと期待をふくらませる。また、規則正しい生活や読書習慣を身につけることの大切さを、指導を通じて実感し実行するとともに、部活動（ブラスバンド部）も積極的に取り組む。
3 ・ 4	〈充実・発見期〉	社会科や選択科目「時事問題」等で現代社会の課題を学ぶことや、「かながわ次世代教養」でのグループによる課題研究等を通じ、自ら課題を発見し、考察することにとどまらず、改善にむけて取り組みたいと強く思うようになり、学校行事の実行委員として裏方に徹する等、積極的に生徒会活動にも参加するようになる。 将来は、困っている人の力になりたいと強く考えるようになる。
5 ・ 6	〈発展・伸長期〉	「かながわ次世代教養」を通じて、災害被害者へのさまざまな支援団体の存在を知り、社会貢献活動の必要性を実感し、幅広くボランティア活動に参加するようになる。また、リーダーシップ特別講座や大学や企業を訪問することを通じて、さまざまな分野で懸命に仕事に取り組む人たちに影響を受け、自らも生徒会や部活動等に卒業まで一生懸命取り組んだ。 法学部へ進み、ボランティア活動等を続けながら、実社会への理解を深め、将来は地方公務員か弁護士になりたいと考えている。

Eさんの場合 小学校時代は、体を動かすのが好きでスポーツが得意だった。

1 ・ 2	〈基礎・観察期〉	「総合的な学習の時間」(キャリアプランニング)で、保育園や幼稚園と定期的に交流を重ねる中で、倒立や宙返りを見せたり、一緒に遊んであげたりすると園児が喜んでくれるのが嬉しく、学校で紹介されたボランティア活動に参加するようになる。
3 ・ 4	〈充実・発見期〉	技術・家庭科の授業で幼児の発達段階や家族関係のことを学習し興味を覚える。ボランティア活動を継続する中で、幼児がさまざまな方法で反応していることに気づくことができるようになり、やりがいを感じるようになる。自己発見チャレンジ週間を利用して、保育園のインターンシップ(就業体験)を行う。また、クラブ活動(バスケットボール部)でも後輩を積極的に指導できるようになる。 体育の教師か、保育士になりたいと考えるようになる。
5 ・ 6	〈発展・伸長期〉	「かながわ次世代教養」の卒業研究では、幼児のコミュニケーションについて取り組み、大学や専門学校との連携講座に積極的に参加し、保育現場の楽しさ、おもしろさに夢中になる。 卒業後は、地域の保育園に助手として就職し、実務経験をつみながら夜は専門学校に通って保育士資格を取得したいと考えている。

Fさんの場合 小学校時代は自然現象や天候・天体などに興味があった。

1 ・ 2	〈基礎・観察期〉	「かながわ次世代教養」の地球環境分野の学習や理科の授業で地球や天気とその変化等について学習し、自分でも天気図を描いて予報をするようになる。
3 ・ 4	〈充実・発見期〉	自己発見チャレンジ週間を利用して、気象に関するインターンシップを行い、仕事の多様さと専門性の高さに圧倒される。また、高卒で受験資格がある気象大学校の存在を知る。 気象庁で働きたいと考えるようになる。
5 ・ 6	〈発展・伸長期〉	「かながわ次世代教養」の卒業研究テーマに関連してさまざまな研究機関を訪問し、気象の専門知識・技能をつけ気象庁で働くためには、「気象大学校」へ入学するのが良いと確信する。 将来は、気象庁で働き、予報業務のスペシャリストになりたい。

相模原方面中等教育学校 教育活動全体図

6年間の学校生活	前期課程(中学校相当)	
	1 年	2 年
	基礎・観察期 【自己観察】	
幅広い教養と次世代を担う 人材に必要な資質・能力の育成 <6年間の体系的な教科活動> 「3つの力」の育成 科学・論理的思考力 表現コミュニケーション力 社会生活実践力	学習への意欲・態度の基礎づくり 【基礎・基本の学習】	
	基礎知識と技能の習得	
	国 語	
	社 会	
	数 学	
	理 科	
	外 国 語	
	音 楽	
	美 術	
	保健体育	
	技術・家庭	
	基礎選択教科 サイエンスチャンネル(多様な科学)ⅠⅡ 英会話技術 など	
豊かな人間性とリーダーシップの育成 <幅広い年齢構成を生かした特別活動等>	<自らのよさの発見 他者への理解>	
	道 徳	
	総 合	
	学 級 活 動	
	○体育祭 ○文化祭 ○オリエンテーション合宿 ○産業体験合宿 など	
自らの将来を考え、社会に積極的に参画する意欲・態度を育てる教育(キャリア教育)を基盤とした教育活動	興味・関心に基づく将来への夢づくり	

		後期課程(高等学校相当)			
	3 年	4 年	5 年	6 年	
	充実・発見期		発展・伸長期		
	【自己発見】		【個性の伸長】		
	学習内容の充実・拡大 【視野を広める学習】		個に応じた学習の発展・応用 【個性に応じる学習】		
《 かながわ次世代教養 》					
理解の深化と課題発見			研究活動と社会への発信		
	国 語	を前期課程から学習	国 語 総 合	必 履 修 対 象 科 目 世界史A 世界史B 日本史A 日本史B 地理A 地理B 理科基礎 理科総合A 物理Ⅰ 化学Ⅰ 生物Ⅰ 地学Ⅰ 音楽Ⅰ 美術Ⅰ 工芸Ⅰ 書道Ⅰ 保健体育 家庭基礎 家庭総合 生活技術 情報A 情報B 情報C	
	社 会		現 代 社 会		
	数 学		数 学 Ⅰ		
	理 科		理科総合 B		
	外 国 語		英 語 Ⅰ		
	音 楽		選 択 対 象 科 目 国語表現Ⅰ 国語表現Ⅱ 現代文 古典講読 古典 倫理 政治・経済 数学基礎 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 数学B 数学C 物理Ⅱ 化学Ⅱ 生物Ⅱ 地学Ⅱ 英語Ⅱ リーディング ライティング オーラル・コミュニケーションⅠ オーラル・コミュニケーションⅡ 音楽Ⅱ 音楽Ⅲ 美術Ⅱ 美術Ⅲ 工芸Ⅱ 工芸Ⅲ 書道Ⅱ 書道Ⅲ		
	美 術				
	保健体育				
	技術・家庭				
	充実選択教科・科目 サイエンスチャンネル(多様な科学)ⅢⅣ 英語実践 記号と論理 時事問題 科学史 など		発展選択科目 科学実験室 サステイナブルソサエティ(持続可能な社会) 評論解析 英語弁論術 グラフィックデザイン など		
	＜自己理解の深化 望ましい人間関係の構築＞		＜社会貢献への意欲 自らの役割の自覚＞		
	道 徳				
的 な 学 習 の 時 間					
／ ホ ー ム ル ー ム 活 動					
主な特別活動例					
		○合唱コンクール など			
○自己発見チャレンジ週間 ○リトルチューター研修 など		○研修旅行 ○大学・研究機関訪問、就業体験 など			
生き方・進路に関する現実的探索			将来設計の立案と社会参画への意欲づくり		

8 施設設備整備

- 相模大野高等学校の施設の改修により、中等教育学校に必要な施設設備などを整備する。
- 教育内容の特色や多様な選択科目展開に必要な各種の実習室、学習室の整備を行う。
- 単位制による教育展開に関する施設として、ロッカースペース、ラウンジ、ガイダンスルーム、カウンセリングルーム、情報管理室などの整備を行うほか、記念室の整備を行う。

9 教職員組織及び運営

- 中等教育学校の展開、後期課程における単位制による教育活動の展開に必要な職員配置を行う。
- 中等教育学校運営のための組織を設置する。
- 学校間連携など柔軟な学びのしくみを活用した教育展開のための連絡調整組織を設置する。

10 入学者の決定

- 志願資格 小学校等を卒業又は修了する見込みの者で、保護者とともに県内に住所を有し、入学後も引き続き県内から通学する者とする。
- 学区 全県を学区とする。
- 募集定員 1学年あたり160名（4学級）男女各80名とする。
- 選考方法 次の検査並びに資料により、県立中等教育学校の設置の目的に対応する資質・能力などの基礎的な力を測るとともに、学ぶ意欲や基礎的な学習の状況を見て総合的に選考し、入学者を決定する。
 - ① 適性検査 : これからの社会で必要とされる幅広い教養を育成していく上での基礎的な力を測る
 - ② グループ活動 : よりよい人間関係を築くための基礎的な能力及び自己を表現する力を測る
 - ③ 作文 : 中等教育学校で学ぼうとする意欲や目的意識を見る
 - ④ 調査書 : 今後の学習につながる基礎的な学習の状況を見る